

第 80 回九州循環器撮影研究会プログラム・抄録集

テーマ 『構造的心疾患に対するカテーテル治療』

日時：令和 5 年 3 月 4 日（土） 13:30～16:10

会 場：Web オンライン形式（Zoom Meetings 予定）

13:30～13:35 開会挨拶と進行説明

13:35～14:00 『当院の経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）について』

宮崎大学医学部附属病院 放射線部 黒木 佑典 先生

14:00～14:25 『SHD インターベンションにおける放射線技師の役割』

小倉記念病院 放射線技師部 桑畑 聖 先生

14:25～14:50 『TAVI における CT 撮影 ー装置の性能を活かした撮像法の構築ー』

熊本大学病院 医療技術部 診療放射線技術部門 坂部 大介 先生

14:50～15:15 『当院の構造的心疾患(SHD)術前C T計測について』

倉敷中央病院 放射線技術部 中川 忍 先生

15:20～16:10 特別講演『構造心疾患カテーテル治療』

熊本大学病院 循環器内科 田畑 範明 先生

『当院の経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）について』

宮崎大学医学部附属病院 放射線部

黒木 佑典 先生

宮崎大学医学部附属病院では、2016年1月にハイブリッド手術室が新設され血管造影装置 Philips 社製 Allura Xper FD20 OR Table with FlexMove が導入された。当初は主に心臓血管外科の TEVAR, EVAR 等に使用し、翌年の 2017 年 9 月から TAVI が開始された。今回、当院で実施されている TAVI の手技の流れ、TAVI の実務経験について紹介していく。

『SHD インターベンションにおける放射線技師の役割』

小倉記念病院 放射線技師部

桑畑 聖 先生

SHD(Structural Heart Disease)に対するインターベンションは、侵襲度が低く、高齢者や外科的治療が困難な患者の治療法として多く選択されており、当院でも、大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症、心房中隔欠損症などに対して治療を行っている。SHD のインターベンションにおいて、ハートチームの存在が重要であり、放射線技師もその一端を担っている。今回は、SHD のインターベンションにおける放射線技師の役割について、当院での取り組みを紹介しながら、講演させて頂く。

『TAVI における CT 撮影 ―装置の性能を活かした撮像法の構築―』

熊本大学病院 医療技術部 診療放射線技術部門

坂部 大介 先生

TAVI における術前 CT 撮影はデバイスの種類、サイズやアクセスルートを決定する上で重要な役割を担っている。当院では SHD 患者における術前 CT を 320 列 ADCT にて年間約 150 件施行しており、患者の状態、腎機能に応じて撮影プロトコルを決定している。今回、当院における ADCT を用いた撮影と造影剤注入、再構成におけるポイントについて概説する。

『当院の構造的心疾患(SHD)術前C T計測について』

倉敷中央病院 放射線技術部

中川 忍 先生

大動脈弁閉鎖不全(AR)の発症メカニズムを大動脈弁複合体の解剖学的変化から理解すると共に、当院のSHD術前C T計測についてTAVI術前を中心に報告する。また、SHD治療時の合併症発生時のアンギオ画像も供覧したい。

特別講演『構造心疾患カテーテル治療』

熊本大学病院 循環器内科

田畑 範明 先生

近年、大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁留置術(TAVI)や僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁弁尖接合術(MitraClip)など構造心疾患に対するカテーテル治療が注目を集めている。技術やデバイスの進歩とともに治療の成績も向上しており、最近では非弁膜症性心房細動に対する経皮的左心耳閉鎖術も本邦に導入され、心疾患患者における治療選択肢はさらに広がっている。本演題ではこれらの構造心疾患インターベンションについて紹介するとともに、今後本邦への導入が期待される最新の治療についても取り上げたい。